

通告４番目、５番、奥田富代子議員、発言席から一問一答方式で質問をお願いいたします。

奥田富代子議員。

○奥田議員 ５番、奥田富代子です。議長の許可を得ましたので、一問一答方式で質問させていただきます。

まず、１つ目の質問です。運転免許返納後の移動手段について質問いたします。

高齢者の運転による交通事故が後を絶たない中、家族に促されて運転免許を返納した方や、もうそろそろ返納の時期かと考えておられる市民の方から、自家用車が乗れなくなったときの移動手段について、ご相談をいただくことが多々あります。

岩出市には巡回バスが走っているので、それを利用してはどうかと提案すると、65歳以上の市民は、無料で利用できることは大変ありがたい。また、そうへいちゃんラッピングが施されたバスが市内を走っているのはかわいいが、あまり乗客が乗っているのを見ない、自宅から停留所まで遠い、行きたい病院のそばに停留所がない、ＪＲとの連携が悪いなどの声も多く聞かれます。

そこでお伺いいたします。１点目としまして、巡回バス一巡における利用者の平均人数、過去５年間の推移をお聞かせください。

２点目として、巡回バスは和歌山バス那賀に委託して運行しているわけですが、市が負担する運営費とその内訳についてをお聞かせください。

３点目、巡回バスの停留所について、市民からはどのような要望があるのでしょうか。

○田中議長 ただいまの１番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○木村総務部長 奥田議員ご質問の１番目、運転免許返納後の移動手段についての１点目、巡回バス一巡における過去５年間の利用者の平均人数についてでございます。

１便平均で、平成30年度は4.27人、令和元年度は4.24人、令和２年度は3.01人、令和３年度は2.93人、令和４年度は3.33人となっております。

次に２点目、巡回バスの運営費とその内訳についてでございます。

平成30年度につきましては、年間運行経費は税込み額合計で2,955万4,590円、運送収入は税抜き額で72万7,271円、国からの補助金が648万9,000円、当市からの補助金が2,233万8,319円です。

令和元年度につきましては、年間運行経費は税込み額で3,096万7,170円、運送収入は税抜き額で89万7,399円、国からの補助金は943万1,000円、当市からの補助金

は2,063万8,771円です。

令和2年度につきましては、年間運行経費は税込み額で3,191万7,030円、運送収入は60万2,196円、国からの補助金は967万1,575円、当市からの補助金は2,164万3,259円です。

令和3年度につきましては、年間運行経費は税込み額合計で3,266万7,170円、運送収入は税抜き額で64万847円、国からの補助金は996万5,000円となっており、当市からの補助金は2,206万1,323円です。

令和4年度につきましては、年間運行経費は税込み額合計で3,382万1,690円、運送収入は税抜き額で62万9,919円、国からの補助金が642万4,000円、当市からの補助金額は2,676万7,771円です。

次に、3点目の巡回バスの停留所についての市民からの要望につきましては、停留所の増設要望が若干数ございますが、運行委託事業者である和歌山バス那賀株式会社との調整におきまして、現在のところ増設の計画はございません。

今後、さらなる宅地開発等の状況により、必要に応じて検討してまいります。

○田中議長 再質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 再質問は、2点させていただきます。

巡回バスは、高齢者や障害者といった交通弱者の移動手段であり、地域住民の暮らしを支える公共交通インフラです。せっかく多額を負担して、先ほどもお答えいただきましたところによりますと、市の負担額は毎年2,000万円強ということでございます。それだけの多額を負担して市民の移動手段を用意していただいているのに、利用者が少ないのは、言わば宝の持ち腐れと言われるのではないのでしょうか。

そこで1点目としまして、市では費用対効果をどのように考えるのかをお聞かせください。

次に、市民から愛され喜ばれる巡回バスになるには、どうすればいいのでしょうか。国土交通省が上げている導入効果が認められる事例に、武蔵野市のコミュニティバス、ムーバスがあります。導入後25年がたっていて、年1回、平日と休日に聞き取り調査を行い、改善しているとのこと。

バス停は、高齢者の歩行距離を考慮して、200メートル間隔を基本に設置しております。また、QRコードでリアルタイム運行状況が確認できます。車内にはコミュニティボード、伝言板が設置されていて、地域の情報交換の場として無料で利用できるということです。また、ペットを連れての乗車も可能ということです。

導入効果の分析によりますと、バスを利用する主な理由は、1番として、まず料金が安い、2番目、バス停が近い、3番目、ほぼ時刻どおりにバスが来るというのがベスト3です。各年齢層で外出が増え、80歳以上の人では70%の人が外出が増えたとのことでもあります。

そこで、2点目としてお伺いします。市民の満足度を高め、地域公共交通インフラとして利活用されるための工夫をどのようにお考えでありますでしょうか、お聞かせください。

○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

総務部長。

○木村総務部長 奥田議員の再質問にお答えいたします。

巡回バスは、高齢者をはじめとする交通弱者の方の買物、通院など、地域内での日常生活の移動手段の確保を主たる目的としております。利用者の安全・安心を第一に、事故防止を心がけ、運行を行っているところでございます。また、福祉バスとしての側面もございます。したがって、市の補助金額は、運行経費から運送収入及び国からの補助金を引いた分を負担しておりますが、一概に費用対効果でははかれない部分がございます。

次に、2点目の満足度を高める工夫についてでございます。

令和4年12月に、地域住民の公共交通に対する課題及びニーズを把握するため、アンケート調査を実施いたしました。調査結果と回答者の貴重なご意見を今後の公共交通事業運営の参考とし、利用者の満足度を高めてまいります。

○田中議長 再々質問を許します。

(なし)

○田中議長 これで、奥田富代子議員の1番目の質問を終わります。

引き続きまして、2番目の質問をお願いします。

奥田富代子議員。

○奥田議員 2番目に、ごみ袋のサイズについて質問いたします。

高齢者のひとり暮らしの方から、岩出市指定のごみ袋の小を利用しているが、3日や4日ではいっぱいにならず、1週間分まとめて出すようにしている。しかし、夏場は虫や臭いが気になるので、週に2回出したい。今の小よりも小さい、スーパーで買物したときに入れるぐらいの指定ごみ袋をつくってもらえないかとの声が聞かれます。

そこで伺いいたします。1点目、市民1人1日当たりの可燃ごみの排出量につ

いてお聞かせください。

2点目として、独り暮らしの世帯では、ごみ袋小、これは20リットルですけども、それでも大き過ぎるのではないのでしょうか。

3点目、ごく小、20リットル未満、このようなサイズのごみ袋を指定に加える考えについてお聞きいたします。

○田中議長 ただいまの2番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部長。

○松本生活福祉部長 奥田議員のご質問の2番目、ごみ袋のサイズについて、にお答えします。

1点目の市民1人1日当たりの可燃ごみの排出量は、令和5年3月末現在で、家庭系可燃ごみで462.85グラム、事業系可燃ごみで167.69グラムとなっております。

次に、2点目3点目を一括してお答えします。

現在の20リットル袋よりも小さいサイズの要望があることは承知しております。市といたしましては、ごみの減量に積極的に取り組んでいる方々や、独り暮らしの世帯など、世帯構成に配慮するため、20リットル未満の袋の設定について、今後、岩出市の環境を守る審議会などの意見を参考に研究してまいります。

○田中議長 再々質問を許します。

奥田富代子議員。

○奥田議員 今、ごみの減量に積極的に取り組んでくださる方とか、独り暮らしとか、世帯構成に配慮するために、もう少し小さな袋の設定についても、審議会等の意見を参考にしながら考えていきたいというふうにお答えいただきました。

ごみの減量化に積極的に取り組むということは、地球の環境を守る、温暖化を防ぐことに直結します。すなわちごみの減量はSDGsの達成につながり、ごみ袋もよりコンパクトになり、市民にとっても経済的にお得になります。現在、ごみ袋の大は1枚45円で、それを中のサイズに変えることで、中のサイズは30円ですので、15円のお得となります。そして、中のサイズを小に変えていくと、30円から20円になり、10円のお得、ごみを週に2回出すとして、年間約100枚必要になってまいります。大から中に変更することでは1,500円、中から小に変更することでは1,000円お得ということになってきます。

そこで1点目として、ごみの減量はお財布にも優しいということ、実態調査の見学会などされておりますので、そのような場でも市民に知らせることも有効ではないかと考えますが、いかがでしょうか。

次に、最近、自治体のごみとして捨てられるレジ袋の総量を抑え、プラスチックごみ削減につなげることを目的として、マイバッグを忘れたときの選択肢として、スーパーなどと連携し、市指定可燃ごみ袋をレジ袋の代わりに販売するという取組があるということを知りました。

兵庫県では、淡路市、西宮市、尼崎市、奈良県では、生駒市などが実施しております。そして、この動きは、今全国に広がっているということです。本市でも、市指定ごみ袋をレジ袋の代わりに販売するというこの取組を今後調査研究してはどうかと思いますが、いかがでしょうか。

○田中議長 ただいまの再質問に対する市当局の答弁を求めます。

生活福祉部次長。

○牧野生活福祉部次長 奥田議員の再質問にお答えします。

まず1点目の経済効果、節約ということで、有効ではないかということについてでございます。

これまでも可燃ごみ袋実態調査見学会などの開催により、実際に出された可燃ごみ袋に含まれる資源ごみを正しく分別することで、ごみ袋のサイズが45リットル袋から30リットル袋にサイズダウンできることなど、実際に見ていただき、啓発に取り組んでいるところです。今後も、経済的インセンティブを実感できるよう工夫して取り組んでまいります。

次に、2点目のスーパーと連携しての可燃ごみ袋をレジ袋代わりに販売してはどうか、についてでございますが、まずは情報収集を行ってまいりたいと考えております。

○田中議長 再々質問を許します。

(な し)

○田中議長 これで、奥田富代子議員の2番目の質問を終わります。

引き続きまして、3番目の質問をお願いします。

奥田富代子議員。

○奥田議員 3番目の市の美観についてお聞きいたします。

最近、何人かの方から花のまち I W A D E がなくなるらしい、残念だと言っておられるのを聞きました。それで、私自身はとっさに思ったのは、では、はたちのつどいの会場を飾りつけていた花のパネルとかはどうなるのかということです。あのパネルは二十歳という人生の節目を迎える方々を市を挙げて、まちのみんなが喜び祝っていると感じることでできるオブジェであり、その前で多くの方が記念撮影を

しています。私も来賓として呼んでいただいてからは、毎年楽しみにし、写真を撮ってまいりました。あの花のパネルがなくなるというのはとても残念です。

岩出マラソン大会につきましても、たくさんのプランターで参加者を励まし、会場に花を添えてくれていました。他市から参加してくださる方々へは、ようこそ岩出市への気持ちを伝えるおもてなしであったと感じております。

そこでお伺いたします。1点目として、市は花のまち I W A D E がなくなるということを把握しておられるのでしょうか。

2点目、今後ははたちのつどいや文化祭の花のパネル、マラソン大会のプランターの設置はどうなるのでしょうか。

○田中議長 ただいまの3番目の質問に対する市当局の答弁を求めます。

事業部長。

○田村事業部長 奥田議員ご質問の3番目の1点目についてお答えいたします。

花のまち I W A D E は、岩出まちづくり協議会内の1つのグループであり、その前身は、平成9年5月に、まちづくり活動の推進を図ることを目的として、市民の声をまちづくりに取り入れるために結成されたものです。平成19年5月からは自主的な活動を行う団体として活動され、ほたと灯りのコンサートや秋の根来ウォークなど、地域資源を活用したまちづくり事業のほか、花の苗を育て、市内小中学校や公共施設等にプランターを配布し、まちを花でいっぱいにする事業として取り組んでいただくとともに、市の各種イベントの際には会場を花で飾っていただくなど、本来行政がすべき役割の一端を担っていただき、花いっぱいのまち岩出の P R に大変ご尽力いただいてまいりました。

3年間続いたコロナ禍や後継者不足等により、令和5年度をもって解散されるということではありますが、大変残念であります。発足以来、長きにわたりご尽力いただいたことに対し、心からお礼と感謝を申し上げますとともに、会員の皆様方のご健勝、ご多幸を心からご祈念申し上げます。

今後は花のまち I W A D E の皆さんが取り組まれてきた事業を実施していただくような団体の育成に取り組んでいくとともに、事業の助成も含め、検討してまいります。

○田中議長 教育長。

○湯川教育長 教育委員会として、一括してお答えいたします。

花のまち I W A D E の皆様方には、市や教育委員会が主催する各種イベント、大いにご貢献をいただいてまいりました。花のまち I W A D E の皆様方には心から感

謝を申し上げたいと思います。イベント、行事のみならず、まちづくりにおいては、行政だけでできることは限られており、どんな分野においても、市民皆様方のご協力が不可欠であります。

そういう意味では、様々なボランティア団体に支援を行っておりますが、近年、どの団体においても高齢化の問題が生じており、後継者の育成が課題となっております。今回こういうご判断をされたことにつきましては、大変残念に思っております。

なお、令和5年度のイベントについては、今までどおりご協力をいただけると聞いておりますが、それ以降については、花のまちIWAD Eに代わる団体が見当たらないことから、各イベントでご協力いただいた部分については、どういう形で対応するのか検討しているところでございますが、担当課において、新たな団体の設立について検討していただいておりますので、教育委員会としましても、新団体の設立に協力していきたいと考えております。

いずれにしましても、各イベントにおいて、会場の飾りつけなど重要な役割を果たしていただいておりますので、今後のことにつきましては、担当課と連携した上で、早急に結論を出していきたいと考えております。

奥田議員からも花のまちIWAD Eの皆様方によろしくお伝えください。

○田中議長 再質問を許します。

(なし)

○田中議長 これで、奥田富代子議員の3番目の質問を終わります。

以上で、奥田富代子議員の一般質問を終わります。